

## 過去20年間の小学校・中学校・高等学校における 野球人口減少が、大学野球の野球人口へ及ぼした影響と 20年後の中学校・高等学校の野球人口の変化が大学生の 野球人口へ及ぼす影響

松岡弘記\*

### I. はじめに

2022年4月に総務省統計局は、現在のこどもの数（15歳未満人口）が前年に比べ25万人少ない1,466万人で、1982年から41年連続の減少となり、過去最少となったことを報告した。男女別では男子が751万人、女子が715万人であり、女子100に対する男子の数は105.0であった。また、年齢3階級別こどもの数は、0～2歳が251万人、3～5歳が278万人、6～8歳が301万人、9～11歳が313万人、12～14歳が323万人となったことを報告した（表1）<sup>1)</sup>。

2002年と2022年のこどもの数(15歳未満人口)

を比較すると、過去20年間で1,817万人から1,466万人と351万人減少し、その減少率は19.3%となった。

表2<sup>2)</sup>は小学生と中学生の野球人口の約20年間の変化を示した。軟式学童野球の会員数は筆者が知る限り加盟校数だけであったため、1校当たり20名と仮定して加盟者数を推定した。小学生の野球人口は過去約20年間で205,221人減少し、中学生の野球人口は162,148人減少し、その減少率は各々、49.8%と46.5%となり、大幅に小学生と中学生の野球人口の減少率は15歳未満のこどもの減少率である19.3%を大きく上

表1 過去20年間の15歳未満のこどもの人口の変化

	2002年(万人)	2022年(万人)	変化量(万人)	変化率(%)
0～2歳	352	251	101	28.7
3～5歳	357	278	79	22.1
6～8歳	359	301	58	16.2
9～11歳	362	313	49	13.5
12～14歳	387	323	64	16.5
計	1817	1466	351	19.3

表2 約20年間における小学生と中学生の野球人口の減少

		約20年前(人数)	現在(人数)	変化量(人数)	変化率(%)
小学生	軟式学童野球	296,000	196,840	-99,160	-33.5
	リトルリーグ	111,577	7,300	-104,277	-93.5
	ボーイズ	3,756	2,027	-1,729	-46.0
	ヤングリーグ	340	280	-60	-17.6
	ブロンコリーグ	52	57	5	9.6
	計	411,725	206,504	-205,221	-49.8
中学生	中体連軟式野球	314,022	137,384	-176,638	-56.3
	リトルシニア	20,000	20,552	552	2.8
	ボーイズリーグ	10,000	21,519	11,519	115.2
	ヤングリーグ	3,534	5,300	1,766	50.0
	ポニーリーグ	1,407	2,060	653	46.4
	計	348,963	186,815	-162,148	-46.5

\* 愛知大学現代中国学部教授

回っていた。

これまでこどもの野球人口の減少については、先行研究<sup>注3</sup>にて少子化だけの問題ではなく、こどもの野球離れが報告されている。この野球離れに関しての多くの見解はいずれも推測の域を出ないが、こどもの野球に対する親の負担、野球指導者の暴力やパワハラが存在、勝利至上主義やエリート主義による試合へ出場できない選手の存在が上げられている。また、近年のプロ野球の人気の低迷やメディアへの露出の低下もこどもたちの野球人口の減少に何等かの原因となっていると考えられている。さらに、スポーツ競技のプロ化とその多様化もこどもたちの野球離れに影響を与えてきたのであろうと言われている。

一方、高等教育機関である大学では、すでに20年以上前から2018年以降の少子化による18歳人口の減少が叫ばれ、大学へ入学する学生数の減少により、大学も淘汰され大学数の減少が起きる<sup>注4</sup>ことが想定されていた。大学生の野球には、硬式野球の全日本大学野球連盟<sup>注5</sup>と準硬式野球の全日本大学準硬式野球連盟<sup>注6</sup>、軟式野球の全日本大学軟式野球連盟<sup>注7</sup>と全日本学生軟式野球連盟<sup>注8</sup>の四つの連盟がある。最近の過去20年間で大学数と学生数がどのような変化があり、これらの大学野球人口へどのような影響をもたらしてきたのか、その実態を明らかにし、また、少子化とこどもたちの野球離れによる大学野球の野球人口減少への影響の有無を明確にすることは、近い将来に起こると考えられる大学野球の野球人口減少を防止するための対策を検討する上で大変重要な課題である。

本研究では、このこどもたちの野球離れによる野球人口減少が、最近の過去20年間でどのような変化をし、中学校と高等学校の野球競技以外の人気競技の変化とどのような違いが生じているのかを明確にし、野球競技とそれ以外の人気競技との違いが何故生じたのかを検討すること。また、その20年間の中学校と高等学校の野球人口の変化が、現在の大学野球の野球人口に及ぼしている影響を捉えること。さらに、今後20年後に推定される中学校と高等学校の野球人口の変化から20年後の大学野球の野球人口にどのような影響がもたらされるのかを検証することを目的とした。

## Ⅱ. 過去20年間（2002年と2022年との比較）の変化

### 1. 小学校・中学校・高等学校・大学の校数と在学者数

表3<sup>注9</sup>に小学校から大学の2002年と2022年の学校数の変化を示した。小学校は、23,808校から19,161校と4,647校減少し、変化率は-19.5%であり、中学校は、1,147校減少し、その変化率は-10.3%であり、高等学校は、648校減少し、その変化率は-11.8%であり、大学は686校から807校と逆に121校増加し、その変化率は+17.6%であった。

また、小学校から大学の2002年と2022年の在学者数の変化をみると、小学校在学者は、1,088,022人減少し、変化率は-15.0%であり、中学校在学者は、657,629人減少し、その変化率は-17.0%であり、高等学校在学者は、972,452人減少し、その変化率は-24.7%であり、大学の在

表3 2002年と2022年の小学校、中学校、高等学校、大学の学校数と在学者数の変化

	2002年	2022年	変化量	変化率(%)
<b>学校数(校数)</b>				
小学校	23,808	19,161	-4,647	-19.5
中学校	11,159	10,012	-1,147	-10.3
高等学校	5,472	4,824	-648	-11.8
大学	686	807	121	17.6
<b>在学者数(人数)</b>				
小学校	7,239,327	6,151,305	-1,088,022	-15.0
中学校	3,862,849	3,205,220	-657,629	-17.0
高等学校	3,929,352	2,956,900	-972,452	-24.7
大学	2,786,032	2,930,780	144,748	5.2

学者は逆に144,748人増加し、その変化率は+5.2%であった。

## 2. 全国中学校数、全国中学校男子生徒数並びに男子の中体連加盟校数と加盟者数の多い競技ベスト5

表4<sup>注10</sup>の上段に2002年と2022年の全国中学校数と公益財団法人日本中学校体育連盟(以下:中体連と略す)中体連男子加盟校数並びに加盟校数の多い競技のベスト5の変化を示した。全国中学校数は20年間で1,147校減少し、変化率は-10.3%であった。中体連男子加盟校数は、860校減少し、変化率は-7.8%であった。

また、加盟校数の多い競技のベスト5では、第1位の軟式野球は8,945校から981校減少し、変化率は-11.0%であった。第2位のバスケットボールは7,508校から534校減少し、変化率は-7.1%であった。第3位の卓球は7,395校から854校減少し、変化率は-11.5%となった。第4位のサッカーは6,984校から484校減少し、変化率は-6.9%となった。第5位の陸上は6,627校から162校減少し、変化率は-2.4%となった。この20年間における中体連加盟校数の7.8%の減少を上回ったのは、軟式野球の11.0%の減少と卓球の11.5%の減少のみであった。

表4の下段に2002年と2022年の全国中学校男子生徒数と男子の中体連加盟者数の多い競技の

ベスト5の変化を示した。全国中学校男子生徒数は20年間で315,604人減少し、変化率は-16.0%であった。中体連男子加盟者数は20年間で102,755人減少し、変化率は-8.7%であった。

また、加盟校数の多い競技のベスト5では、第1位の軟式野球は176,638人減少し、変化率は-56.3%であった。第2位のサッカーは55,206人減少し、変化率は-26.7%であった。第3位のバスケットボールは30,545人減少し、変化率は-15.5%となった。第4位の卓球は20,428人減少し、変化率は-12.3%となった。第5位の陸上は逆に12,812人増加し、変化率は+11.5%となった。また、この20年間の中体連男子加盟者数の8.7%の減少を上回ったのは、軟式野球が大幅な56.3%の減少、サッカー、バスケットボール、卓球が各々26.7%、15.5%、12.3%減少した。

このように20年間における中体連加盟校数の7.8%の減少を上回ったのは、軟式野球と卓球の11.0%の減少と11.5%の減少のみであり、バスケットボール、サッカー、陸上は加盟校数の減少は、中体連加盟校数の減少を下回った。

また、中体連男子加盟者数の減少の-8.7%を上回ったのは陸上以外の軟式野球(-56.3%)、サッカー(-26.7%)、バスケットボール(-15.5%)、卓球(-12.3%)ともに減少がみられたが、特に軟式野球の大幅な減少が突出しており、サッカーの2倍もあり、他の競技よりもその減少は

表4 2002年と2022年の全国中学校数と中体連男子加盟校数、男子の生徒数と加盟者数の変化並びに加盟校数と加盟者数の多い競技のベスト5の変化。

	2002年	2022年	変化量	変化率(%)
<b>学校数・加盟校数(校数)</b>				
全国中学校数	11,159	10,012	-1,147	-10.3
中体連男子加盟校数	10,969	10,109	-860	-7.8
軟式野球	8,945	7,964	-981	-11.0
バスケットボール	7,508	6,974	-534	-7.1
卓球	7,395	6,541	-854	-11.5
サッカー	6,984	6,500	-484	-6.9
陸上	6,627	6,465	-162	-2.4
<b>生徒数・加盟者数(人数)</b>				
全国中学校男子生徒数	1,975,042	1,659,438	-315,604	-16.0
中体連男子加盟者数	1,187,442	1,084,687	-102,755	-8.7
軟式野球	314,022	137,384	-176,638	-56.3
サッカー	206,750	151,544	-55,206	-26.7
バスケットボール	196,523	165,978	-30,545	-15.5
卓球	166,384	145,956	-20,428	-12.3
陸上	111,600	124,412	12,812	11.5

極めて顕著であった。この中体連軟式野球加盟者数の大幅な減少は、この20年間における小学生野球人口の減少(-49.8%)による大きな影響を受けたものと推察された。しかし、陸上以外の中体連加盟者数が多い人気競技も加盟者数が減少しており、中体連加盟者数の減少の影響の他に多様なスポーツへ加盟者が参加していることが考えられよう。

### 3. 全国高等学校数、全国高等学校男子生徒数、並びに高体連男子加盟校数と加盟者数の多い競技ベスト4

表5<sup>注11</sup>の上段に2002年と2022年の全国の高等学校数と公益財団法人全国高等学校体育連盟(以下:高体連と略す)加盟校数と男子の加盟校数の多い競技のベスト4の変化を示した。全国の高等学校数は5,472校から648校減少し、変化率は-11.8%であった。高体連男子加盟校数(加盟しているすべての競技の合計値)は20年間で48,322校から5,649校減少し、変化率は-11.7%であった。

また、加盟校数の多い競技のベスト4では、第1位のバスケットボールは4,362校から104校減少し、変化率は-2.4%であった。第2位のサッカーは4,288校から404校減少し、変化率は-9.4%

であった。第3位の陸上は4,274校から176校減少し、変化率は-4.1%となった。第4位の卓球は3,921校から逆に46校増加し、変化率は+1.2%となった。一方、公益財団法人日本高等学校野球連盟(以下:高野連と略す)の硬式野球は4,218校から361校減少し、変化率は-8.6%となった。軟式野球は、549校から150校減少し、変化率は-27.3%であった。

表5の下段に2002年と2022年の全国高等学校男子生徒数と高体連加盟男子生徒数と並びに男子の加盟生徒数の多い競技のベスト4の変化を示した。全国高等学校男子生徒数は20年間で1,981,645人から482,612人減少し、変化率は-24.4%であった。高体連加盟男子生徒数は20年間で790,111人から85,555人減少し、変化率は-10.6%であった。

また、加盟男子生徒数の多い競技のベスト4では、第1位のサッカーは149,591人から2,505人減少し、変化率は-1.7%であった。第2位のバスケットボールは95,459人から5,739人減少し、変化率は-6.0%であった。第3位の陸上は59,783人から9人増加し、変化率は±0.0%となった。第4位の卓球は48,573人から1,386人減少し、変化率は-2.9%となった。

一方、高野連の硬式野球は151,437人から

表5 2002年と2022年の全国高等学校数・高体連男子加盟校数と男子の生徒数と加盟者数の変化並びに加盟校数の多い競技のベスト4の変化。(硬式野球と軟式野球は日本高等学校野球連盟加盟校数)

	2002年	2022年	変化量	変化率(%)
<b>学校数・加盟校数(校数)</b>				
全国高等学校数	5,472	4,824	-648	-11.8
高体連男子加盟校数	48,322	42,673	-5,649	-11.7
バスケットボール	4,362	4,258	-104	-2.4
サッカー	4,288	3,884	-404	-9.4
陸上	4,274	4,098	-176	-4.1
卓球	3,921	3,967	46	1.2
硬式野球	4,218	3,857	-361	-8.6
軟式野球	549	399	-150	-27.3
<b>生徒数・加盟者数(人数)</b>				
全国高等学校男子生徒数	1,981,645	1,499,033	-482,612	-24.4
高体連男子加盟者数	790,111	704,556	-85,555	-10.8
バスケットボール	95,459	89,720	-5,739	-6.0
サッカー	149,591	147,086	-2,505	-1.7
陸上	59,783	59,792	9	0.0
卓球	48,573	47,187	-1,386	-2.9
硬式野球	151,437	131,259	-20,178	-13.3
軟式野球	12,650	7,820	-4,830	-38.2



20,178人減少し、変化率は-13.3%となった。軟式野球は、12,650人から4,830人減少し、変化率は-38.2%であった。また、この20年間の高体連男子加盟者数の減少の-10.8%を上回ったのは、硬式野球 (-13.3%)、軟式野球 (-38.2%) の減少であった。この男子生徒数の減少を上回る減少は、少子化の減少とは異なる何等かの理由が考えられる。特に軟式野球では他の競技に比べて極めて顕著な減少を示した。

この20年間にみられた小学生の野球人口 (-49.8%) と中体連軟式野球 (-56.3%) の加盟者数の大幅な減少は、高野連の軟式野球の減少にも大きな影響を及ぼしていることが明らかとなった。しかし、それらは高野連の硬式野球の減少には、大きな影響を及ぼしているとは考えられなかった。

また、加盟者数の多い人気競技では、バスケットボール、サッカー、陸上、卓球はその変化率は、20年間で高体連の男子加盟者数減少の-10.8%を大きく下回り、軟式野球の減少と大きく異なり、それらの高体連加盟者数の多い人気競技には、高体連加盟者数の減少の影響はみられなかった。この理由は不明であるが、現在の高等学校において高校生に魅力ある競技として存在していることが考えられよう。

#### 4. 全国の大学校数と大学硬式野球と大学準硬式野球の加盟校数並びに全国の大学男子学生数と大学硬式野球の加盟者数と大学準硬式野球の加盟者数

表6<sup>注12</sup>に2002年と2022年の全国の大学校数と大学硬式野球の加盟校数と大学準硬式野球の

加盟校数の変化を示した。全国の大学校数は20年間で686校から807校となり、121校増加し、変化率は+17.6%であった。大学硬式野球加盟校数は、358校から14校増加し、変化率は+3.9%であった。大学準硬式野球加盟校数は、270校から272校となり、2校増加し、変化率は+0.7%であった。

表6の下段に2002年と2022年の全国の大学男子学生数と大学硬式野球の加盟者数と大学準硬式野球の加盟者数の推移を示した。全国の大学男子学生数は20年間で1,726,088人から99,283人減少し、変化率は-5.8%であった。大学硬式野球加盟者数は、20,146人から8,623人増加し、変化率は+42.8%であった。大学準硬式野球加盟者数は、8,373人から925人増加し、変化率は+11.0%であった。

この20年間において、大学数は17.6%増加したものの、男子学生数は5.8%減少したが、しかし、大学硬式野球の加盟者数は42.8%も増加し、大学準硬式野球の加盟者数も11.0%増加し、男子学生数の減少による大学硬式野球と大学準硬式野球の加盟者数への影響はみられなかった。一方、軟式野球の全日本大学軟式野球連盟と全日本学生軟式野球連盟の加盟者数の推移がこれらのホームページに記載がなかったため不明であり、どのように変化したのかを知ることができなかった。このような20年間の中学校と高等学校の軟式野球人口の大幅な減少が、大学硬式野球と大学準硬式野球の加盟者数に何も影響していないことが明らかとなった。

表6 2002年と2022年の全国大学数、男子の硬式野球と準硬式野球の加盟校数の変化並びに全国大学学生数、男子の硬式野球と準硬式野球の加盟者数の変化。

	2002年	2022年	変化量	変化率 (%)
学校数・加盟校数 (校数)				
全国大学校数	686	807	121	17.6
硬式野球加盟校数	358	372	14	3.9
準硬式野球加盟校数	270	272	2	0.7
学生数・加盟者数 (人数)				
全国大学学生数	1,726,088	1,626,805	-99,283	-5.8
硬式野球加盟者数	20,146	28,769	8,623	42.8
準硬式野球加盟者数	8,373	9,298	925	11.0

### Ⅲ. 過去20年間（2002年～2022年）の中体連と高体連のベスト5の各競技のピーク年

表7<sup>注13</sup>の上段に過去20年間（2002年～2022年）の男子の中体連加盟者数の多い競技ベスト5の加盟者数のピーク年を示した。第1位軟式野球が2002年314,022人、第2位サッカーが2013年253,517人、第3位バスケットボールが2002年196,523人、第4位卓球が2004年169,526人、第5位陸上が2013年132,151人であった。

表7の中段に過去20年間（2002年～2022年）の高体連加盟男子加盟者数と高野連の硬式野球と軟式野球の加盟者数並びにその加盟者数の多い競技のベスト5の加盟者数のピーク年を示した。第1位硬式野球が2014年170,312人、第2位サッカーが2016年169,855人、第3位バスケットボールが2014年98,385人、第4位陸上が2014年71,229人、第5位卓球が2009年54,393人であった。

表7の下段に過去20年間（2002年～2022年）の全国の大学男子学生数と大学硬式野球と大学準

硬式野球の加盟者数が最も多いピーク年を示した。全国の大学男子学生数は、2005年1,740,151人であり、大学硬式野球加盟者数のピーク年は2018年29,207人であり、大学準硬式野球加盟者数のピーク年は2017年10,906人であった。

この20年間における、中体連男子加盟者数のピーク年は、軟式野球とバスケットボールが2002年、卓球が2003年となり、サッカーと陸上は2013年と分かれた。また、高体連では硬式野球とバスケットボールと陸上が2014年となり、サッカーが2016年、卓球が2009年となった。この20年間において中体連と高体連では、2002年が最も加盟者数が多くなったが、各々ベスト5の競技の加盟者数のピーク年はそれとは一致しなかった。このことは、中体連と高体連における男子加盟者数の増加だけが、各競技の加盟者数を導く要因とはなっていないことを示している。また、この状況は大学でも同じであり、大学生数のピーク年と大学硬式野球と大学準硬式野球のそれぞれの加盟者のピーク年は一致しなかった。

表7 過去20年間（2002年～2022年）の全国中学校・高等学校・大学の在校生数と男子の中体連・高体連・大学野球の加盟者数のピーク値並びに加盟者数の多い競技のベスト5のピーク値。

	西暦(年)	年号	人数	平均1校当たりの人数
<b>中学校</b>				
全国中学校生徒数	2002	平成14	3,862,849	346
中体連男子加盟者数	2002	平成14	1,479,568	135
軟式野球	2002	平成14	314,022	34
サッカー	2013	平成25	253,517	34
バスケットボール	2002	平成14	196,523	27
卓球	2004	平成16	169,526	24
陸上	2013	平成25	132,151	20
<b>高等学校</b>				
全国高等学校生徒数	2002	平成14	3,929,352	718
高体連男子加盟者数	2002	平成14	790,111	228
サッカー	2016	平成28	169,855	37
バスケットボール	2014	平成26	98,385	22
陸上	2014	平成26	71,229	17
卓球	2009	平成21	54,393	13
軟式野球	2002	平成14	12,650	23
硬式野球	2014	平成26	170,312	40
<b>大学</b>				
大学男子学生数	2005	平成17	1,740,151	2397
硬式野球	2018	平成30	29,207	77
準硬式野球	2017	平成29	10,906	38

#### Ⅳ. 過去20年間（2002年～2022年）のスポーツ界の主なできごとと放映されたスポーツアニメ

スポーツ競技を選択して始める理由<sup>注14</sup>には、そのスポーツをする楽しさや憧れ、夢や希望などがある。スポーツ競技の大会やプロ競技をテレビ放映や実際に競技場にて観戦すること。または、その競技を間近に体験できる状況により、スポーツ競技の選択と実施の動機付け<sup>注15</sup>が得られよう。さらに、テレビ放映されているスポーツアニメ番組や漫画などの週刊誌やコミックを読んで面白みを感じてスポーツ競技を選択して実施を動機付け<sup>注16</sup>こともあり得よう。

表8<sup>注17</sup>に過去20年間（2002年～2022年）の野球、サッカー、バスケットボール、卓球、陸上のスポーツ界の主なできごとを示した。過去

20年間において野球のできごとが一番多くあり、次に多いのはサッカーであった。野球は1936年にプロ化し、サッカーは1993年にプロ化した。一方、この20年間でバスケットボールが2015年にプロ化し、2004年に日本人初のNBA選手が誕生して以来、それに引き継ぐ2人のNBA選手が誕生した。卓球が2012年以降オリンピックでメダル獲得を復活し、2018年にプロ化した。陸上に関しても、プロランナーが出現しており、日本人のオリンピックや世界陸上で活躍やメダル獲得があった。

表9<sup>注18</sup>に過去20年間（2002年～2022年）の野球、サッカー、バスケットボール、卓球、陸上の放映されたアニメを示した。過去20年間において、スポーツアニメは、どのスポーツ競技にも隔たることなく、様々なスポーツ競技のアニメ放映がなされていた。

表8 過去20年間におけるスポーツ界の主なできごと

						中体連加盟者数ピーク
						高体連加盟者数ピーク
西 暦	年 号	野 球	サ ッ カ ー	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	卓 球	陸 上
2002	平成14	長嶋茂雄が野球日本代表監督に就任。プロ野球巨人の松井秀喜が米大リーグのヤンキースと契約 314,022人 軟式12,650人	サッカーW杯日韓大会。決勝トーナメント進出。トルコに0-1。出場2度目で初の決勝トーナメント出場。	196,523人		陸上GPファイナルのハンマー投げで室伏浩治が日本選手初のファイナル勝利。
2003	平成15	ドジャースの野茂英雄が米大リーグ通算100勝。プロ野球阪神が18年振りセ・リーグ優勝。			世界卓球で福原愛がベスト8。	世界陸上男子200mで末続慎吾が3位。同マラソンで野口みずきが2位、千葉真子が3位。
2004	平成16	夏の甲子園で駒大苫小牧が春夏通じ北海道勢初の甲子園優勝。マリナーズのイチローが年間258安打の米大リーグ新記録。		米プロバスケットボール協会のサンズが田臥勇太を開幕登録。日本初のNBA選手。	169,526人	女子マラソンで野口みずきが前回の高橋尚子に続く金。陸上ハンマー投げで室伏浩治が金。
2005	平成17	プロ野球セ・パ交流戦始まる。米大リーグ・デビルレイズの野茂英雄が日米通算200勝。米ワールドシリーズでホワイトソックスが優勝。井口資仁が日本選手で初の王座に。				
2006	平成18	WBCで王貞治監督率いる日本が初代王者に。夏の甲子園決勝が再試合となり、早稲田実業が初優勝。プロ野球日本ハムが44年振り日本一。プロ野球西武の松坂大輔が米大リーグのレッドソックス移籍へ。	サッカーW杯ドイツ大会、敗退後に中田英寿が引退表明。			

2007	平成 19	プロ野球でセ・リーグも加わってCS開始。セリーグ2位中日が勝ち上がって日本一。米大リーグ・レッドソックスの松坂大輔が1年目で15勝。ワールドシリーズも制覇。	サッカーのアジア・チャンピオンズリーグ(ACL)でJ1浦和が日本勢初優勝。			
2008	平成 20				ナショナル・トレーニングセンター共用開始。エリートアカデミーも開設し、卓球の早期英才教育を開始。	北京オリンピック、陸上男子400mリレーで銀。
2009	平成 21	WBCで日本が連覇。マリナーズのイチローが米大リーグ新記録の9年連続200安打。米ワールドシリーズでヤンキースが優勝。松井秀喜が日本選手初のシリーズMVP。	J1で鹿島が史上初の3連覇。		54,393人	
2010	平成 22	プロ野球交流戦で6位までバ・リーグ。興南が沖縄県初の夏の甲子園制覇。	サッカーW杯南アフリカ大会、決勝トーナメント進出、パラグアイにPK3-5敗退。本田圭祐、長友佑都、香川真司ら海外移籍が増える。			陸上女子100mで福島千里が11秒21、2年間で3度の日本新。
2011	平成 23	東日本大震災でプロ野球はガンバレ日本活動。	サッカー女子W杯でなでしこジャパンが初優勝。沢穂希がMVP。団体が初の国民栄誉賞。			東京マラソンで市民ランナーの川内優輝が3位。世界陸上男子ハンマー投げで室伏広治が優勝。
2012	平成 24	岩手・花巻東高の投打「二刀流」大谷翔平を日本ハムが単独指名。				全日本卓球女子シングルスで福原愛が悲願の初優勝。ロンドン五輪、卓球女子団体で五輪最高の銀。
2013	平成 25	長嶋茂雄、松井秀喜に国民栄誉賞。プロ野球ヤクルトのバレンティンがシーズン60本塁打の歴代最多記録。プロ野球楽天が創設9年目で初のバ・リーグ優勝、日本一。	253,517人			132,151人
2014	平成 26	プロ野球中日の岩瀬仁紀が史上初の通算400セーブ。硬式170,312人	サッカーW杯ブラジル大会1次リーグ敗退。	98,385人		71,229人
2015	平成 27	プロ野球ヤクルトの山田哲人、ソフトバンクの柳田悠岐がトリプルスリー。				世界陸上男子50km競歩で谷井孝行が3位、日本競歩界初のメダル。
2016	平成 28	マリナーズのイチローが米大リーグ通算3000安打。史上最速タイの16年目で。	169,855人	バスケットボールのBリーグが開幕。	卓球男子団体で五輪最高の銀。水谷隼はシングルスも銅。	陸上男子400mリレーで2大会ぶり銀。
2017	平成 29	プロ野球日本ハムの大谷翔平が米大リーグのエンゼルスへ。				陸上男子100mで桐生祥秀が9秒98、日本選手初の9秒台。
2018	平成 30	米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平がア・リーグ新人王。投打に高い評価。大阪桐蔭が甲子園春夏連覇。	サッカーW杯ロシア大会、決勝トーナメント進出。2-3でベルギーに敗退。アジア勢がw杯で南米チームに初勝利。	渡辺メンフィス・グリズリーズと契約、日本人2人目のNBA選手。	卓球グランドファイナルで15歳の張本智和が男子シングルス史上最年少優勝。	
2019	令和元	マリナーズのイチローが引退。日米通算4367安打。		八村塁が日本人初のNBAドラフト1順目でワシントン・ウィザーズから指名。	全日本卓球で伊藤美誠が女子初の2年連続3冠。	
2020	令和2					大迫傑、東京マラソンで日本新記録を更新
2021	令和3	大リーグ・エンゼルスの大谷翔平がア・リーグ最優秀選手。球宴で史上初の二刀流出場。		東京五輪、女子バスケットボール日本代表が史上初の銀	卓球混合ダブルス、水谷隼・伊藤美誠のペアが日本卓球史上初の金。	
2022	令和4	大リーグ・エンゼルスの大谷翔平が1918年のペープ・ルース以来の2桁勝利と2桁本塁打を達成。104年振りの記録。	サッカーW杯カタール大会、予選リーグで日本が4度の優勝を誇るドイツに2-1で逆転勝利。			



表9 過去20年間の野球、サッカー、バスケットボール、卓球、陸上の放映されたスポーツアニメ  
 中体連加盟者数ピーク  
 高体連加盟者数ピーク

西暦	年号	野球	サッカー	バスケットボール	卓球	陸上
		1936年(昭和11) 日本職業野球連盟創立	1993年(平成5) Jリーグが開幕	2015年(平成27) 日本プロバスケットボールリーグ設立	2018年(平成30年)日本卓球プロ「Tリーグ」創設	
2002	平成14	314,022人 軟式12,650人	ホイッスル ハングリーハート WILD STRIKER	アイル / CKBC 196,523人		
2003	平成15			DEAR BOYS		
2004	平成16	メジャー			169,526人	
2005	平成17			BUZZER BEATER		涼風
2006	平成18					Kanon
2007	平成19	大きく振りかぶって				
2008	平成20	ワンナウツ	イナズマイレブン			
2009	平成21	クロスゲーム		バスカッシュ	咲-Saki- 54,393人	
2010	平成22		GIANT KILLING			俺の妹がこんなに可愛いわけがない
2011	平成23			ロウきゅーぶ	ゆるゆり	
2012	平成24	リトルバスターズ	エリアの騎士 銀河へキックオフ!!	黒子のバスケ		
2013	平成25	ダイヤのエース	253,517人			Free! 132,151人
2014	平成26	硬式170,312人		花物語 98,385人	ピンポン	アラタカンガタリ ~革神語~ 71,229人
2015	平成27				てさぐれ! 部活もの すびんおふ プルプルんシャルムと遊ぼう 冴えない彼女の育てかた	
2016	平成28		DAYS 169,855人	バランガイ143	灼熱の卓球娘	プリンス・オブ・ストライド オルタナティブ
2017	平成29					劇場版 Fate/stay night [Heaven's Feel]
2018	平成30				立花館 To Lie あんぐる ゆらぎ荘の幽奈さん	風が強く吹いている 恋は雨上がりのように
2019	令和元	mix のシンデレラライン 8月		あひるの空	神田川 JET GIRLS	
2020	令和2					
2021	令和3					
2022	令和4		ブルーロック			

## V. 2002年と2022年の全国中学校、高等学校、大学の平均1校当たりの在校生数

表10<sup>注19</sup>に2002年と2022年の全国中学校・高等学校・大学の平均1校当たりの在校生数と男子の中体連・高体連・大学野球の1校当たりの加盟者数の変化並びに加盟者数の多い競技のベスト5の変化を示した。中体連加盟者数は1校当たり107名となり、20年間で28名減少した。その減少の内訳は、主に軟式野球が17名、サッカーが7名であり、2002年に1校当たり最も多かった軟式野球が34名で、次にサッカーの30名であったが、2022年には1校当たりの加盟者数は軟式野球が17名、サッカーが23名となり、他の3つの競技の1校当たりの人数に近づいたと

言えよう。

しかし、高体連では20年間で1校当たりの人数の変化はほとんどみられていない。また、大学では20年間で硬式野球が21名も増えている。これらのことは、中学生ではスポーツ競技の選択の多様化が進んできたが、高等学校生以上では、その影響がほとんどみられていないことが明らかとなった。しかし、この点に関しては、中体連加盟者数の動向だけではなく、地方自治体でのスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどでのスポーツ活動を行っている中学生の実態を調査する必要があるだろう。

表11<sup>注20</sup>に2018年と2022年の全国中学校・高等学校・大学の平均1校当たりの在校生数と男子の中体連・高体連・大学野球の1校当たりの

加盟者数の変化並びに加盟者数の多い競技のベスト5の変化を示した。

最近5年間の変化をみると、中体連加盟者数の減少は、-7.0%であり、それを上回るのは、

軟式野球 (-15.0%)、サッカー (-20.7%)、卓球 (-8.3%) の各々の減少であった。また、1校当たりの高体連加盟者数は5年間で-5.9%減少し、それを上回ったのはサッカー (-7.5%) と硬式

表10 2002年と2022年の全国中学校・高等学校・大学の平均1校当たりの在校生数と男子の中体連・高体連・大学野球の平均1校当たりの加盟者数の変化並びに加盟者数の多い競技のベスト5の変化。

	2002年	2022年	変化量(人数)	変化率(%)
<b>中学校</b>				
全国中学校男子生徒数	177	162	-15	-8
中体連男子加盟者数	135	107	-28	-21
軟式野球	34	17	-17	-50
サッカー	30	23	-7	-23
バスケットボール	26	24	-2	-8
卓球	22	22	-	0
陸上	17	19	2	12
<b>高等学校</b>				
全国高等学校男子生徒数	362	311	-51	-14
高体連男子加盟者数	228	204	-24	-11
サッカー	38	37	-1	-3
バスケットボール	22	21	-1	-5
陸上	14	15	1	7
卓球	11	12	1	9
軟式野球	23	20	-3	-13
硬式野球	36	34	-2	-6
<b>大学</b>				
大学男子学生数	2516	2016	-500	-20
硬式野球	56	77	21	38
準硬式野球	31	34	3	10

表11 2018年と2022年の全国中学校・高等学校・大学の平均1校当たりの在校生数と男子の中体連・高体連・大学野球の平均1校当たりの加盟者数の変化並びに加盟者数の多い競技のベスト5の変化。

	2018年	2022年	変化量(人数)	変化率(%)
<b>中学校</b>				
全国中学校男子生徒数	160	162	2	1.3
中体連加盟者数	115	107	-8	-7.0
軟式野球	20	17	-3	-15.0
サッカー	29	23	-6	-20.7
バスケットボール	23	24	1	4.3
卓球	24	22	-2	-8.3
陸上	20	19	-1	-5.0
<b>高等学校</b>				
全国高等学校男子生徒数	334	311	-23	-6.9
高体連加盟者数	217	204	-13	-6.0
サッカー	40	37	-3	-7.5
バスケットボール	21	20	-1	-4.8
陸上	17	15	-2	-11.8
卓球	12	12	-	0.0
軟式野球	20	20	-	0.0
硬式野球	39	34	-5	-12.8
<b>大学</b>				
大学男子学生数	2081	2016	-65	-3.1
硬式野球	77	77	-	0.0
準硬式野球	38	34	-4	-10.5

表12 20年後(2042年)の中学校・高等学校・大学の平均1校当たりの野球加盟者数と加盟者数の多い競技のベスト5の推定値。

	2022年	2042年 a	2042年 b
<b>中学校(人数)</b>			
軟式野球	17	9	9
サッカー	23	18	9
バスケットボール	24	22	28
卓球	22	22	16
陸上	19	21	15
<b>高等学校(人数)</b>			
サッカー	37	36	27
バスケットボール	21	20	17
陸上	15	16	9
卓球	12	13	12
軟式野球	20	17	20
硬式野球	34	32	20
<b>大学(人数)</b>			
硬式野球	77	106	77
準硬式野球	34	37	22

a: 過去20年間(2002年と2022年)の変化率にて推定した。

b: 過去5年間(2018年と2022年)の変化率にて推定した。

野球(-12.8%)の各々の減少であった。さらに、大学では大学準硬式野球の減少は-10.5%であった。

## Ⅵ. 将来20年間(2022年～2042年)の推計

表12<sup>注21</sup>に20年後(2042年)の中学校・高等学校・大学の平均1校当たりの野球加盟者数と加盟者数の多い競技のベスト5の推定値を示した。

これらの数値から将来2042年の20年後の推計を試してみた。aは過去20年間の変化率にてbは最近5ヶ年間の変化率にて20年後の1校当たりの加盟者数を推定した。その結果、中学校では1校当たりの軟式野球が9名、サッカーが9名から18名の範囲と最も少なかった。高等学校は、陸上が9名から16名の範囲と最も少なく、軟式野球は17名から20名の範囲であり、硬式野球は20名から32名の範囲となった。また、大学では、硬式野球は77名から106名の範囲、準硬式野球が22名から37名の範囲と推定された。

今後20年後に推定される中学と高校の野球人口の変化は、20年後の大学野球の硬式野球にはその影響を及ぼさないが、準硬式野球の野球人口に最大で35.3%の減少をもたらす可能性が示

唆された。

## Ⅶ. まとめ

少子化によるこどもの人口減少と子どもたちの野球離れによる野球人口の減少が、最近の過去20年間(2002年と2022年の比較)でどのような変化をし、中体連と高体連の野球人口にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすること。また、その野球人口の変化と野球競技以外の人気競技人口の変化とは、どのような違いが生じているのかを明確にすること。

一方、20年間の中学生と高等学校生の野球人口の変化が、現在の大学野球の野球人口の変化に及ぼしている影響を捉えること。さらに、今後、20年後に推定される中学校と高等学校の野球人口の変化から20年後の大学野球の野球人口にどのような影響がもたらされるのかを検証することを目的とした。

最近の過去20年間で中体連男子加盟者数減少の-8.7%を上回ったのは、陸上競技を除いて軟式野球(-56.3%)、サッカー(-26.7%)、バスケットボール(-15.5%)、卓球(-12.3%)とともに減少がみられた。特に軟式野球の大幅な減少は、サッカーの2倍であり、他の競技よりその減少は顕著であった。この中体連軟式野球加盟者数の大

幅な減少は、この20年間における小学生野球人口の減少（49.8%）による大きな影響を受けたものと推察された。しかし、陸上以外の中体連加盟者数が多い人気競技も加盟者数が減少しており、中体連加盟者数の減少の影響の他に多様なスポーツへ加盟者が参加していることが考えられよう。

高体連男子加盟者数の減少の-10.6%を上回ったのは、軟式野球（-38.2%）、硬式野球（-13.3%）の減少であり、加盟者数の多い人気競技であるサッカー、バスケットボール、陸上、卓球はその減少を下回っていた。

この20年間の中体連と高体連の加盟者数の多い人気競技の変化とは異なり、小学生野球人口が49.8%と中体連軟式野球の加盟者数が56.3%となった大幅な野球人口の減少は、高等学校の軟式野球の-38.2%の減少に大きな影響を与えていることが明らかとなった。しかし、それらは高等学校の硬式野球の減少には、大きな影響を及ぼしていなかった。

また、加盟者数の多い人気競技では、バスケットボールが12.4%の減少があった以外、サッカー、陸上、卓球はその変化率は、20年間で高体連の男子加盟者数減少の-10.6%を大きく下回り、軟式野球の減少と大きく異なり、それらの高体連加盟者数の多い人気競技には、高体連加盟者数の減少の影響はみられなかった。この理由は不明であるが、現在の高等学校において高校生に魅力ある競技として存在していることが考えられよう。

過去20年間のスポーツ界のできごとは、野球のできごとが最も多かったが、小学生野球人口や中体連の野球人口の減少を抑制や増加をさせる機能はなかった。また、その間にテレビ放映されたスポーツアニメは、どのスポーツ競技にも隔たることなく様々なスポーツ競技のアニメ放映がなされており、スポーツ競技人口へ大きな影響を与えているとは考えられなかった。

最近の過去20年間の大学男子学生数は5.8%減少したが、大学硬式野球の加盟者数は42.8%増加し、大学準硬式野球の加盟者数も11.0%増加し、このような20年間の中学校と高等学校の軟

式野球人口の大幅な減少が、大学硬式野球と大学準硬式野球の加盟者数に何も影響していないことが明らかとなった。

一方、20年後（2042年）の中学校、高等学校、大学の平均1校当たりの野球加盟者数を推定すると、中学校では1校当たり軟式野球が9名と最も少なく、高等学校では軟式野球が17名～20名の範囲、硬式野球が20名～32名の範囲となり、大学では硬式野球が77名～106名の範囲、準硬式野球が22名～37名の範囲と推定された。今後20年後に推定される中学校と高等学校の野球人口の変化は、20年後の大学硬式野球人口の減少に影響を及ぼさないが、大学準硬式野球の人口に最大で35.3%の減少をもたらす可能性が示唆された。

## 注

注1 総務省ホームページ 総務省統計局統計トピックスNo.131 我が国のこどもの数 - 「こどもの日」にちなんで（「人口推計」から）

<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topil311.html> 2023

表1は上記ホームページを参考に筆者作成。

注2 ベースボールジャパン 小学生・少年硬式野球の競技人口の変化を調べてみました | 少年野球情報・監督インタビュー（baseball-japan.jp） <https://baseball-japan.jp/?p=5696> 2023

公益財団法人 全日本軟式野球連盟（jsbb.or.jp） <https://www.jsbb.or.jp/> 2023

公益財団法人 日本中学校体育連盟（nippon-chutairen.or.jp） <https://nippon-chutairen.or.jp/> 2023

表2は上記ホームページを参考に筆者作成。

注3 広尾 晃 野球崩壊 深化する野球離れを食い止める イースト・プレス 初版、東京pp.1-234, 2016

注4 小川洋 消えゆく「限界大学」白水社pp.1-232, 東京, 2016

注5 公益財団法人 全日本大学野球連盟（jubf.net） <https://www.jubf.net/> 2023

注6 JBA 全日本大学準硬式野球連盟（junkoh.jp） <https://junkoh.jp/> 2023

- 注7 全日本大学軟式野球連盟 公式サイト (junbf.jp) <https://junbf.jp/> 2023
- 注8 全日本学生軟式野球連盟 公式サイト - 全日本学生軟式野球連盟 公式サイト (jinbf.jp) <https://www.jinbf.jp/> 2023
- 注9 文部科学省ホームページ 学校基本調査：文部科学省 (mext.go.jp) <https://www.mext.go.jp/> 2023  
表3は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注10 公益財団法人日本中学校体育連盟 (nippon-chutairen.or.jp) <https://nippon-chutairen.or.jp/2023>  
表4は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注11 公益財団法人 全国高等学校体育連盟 | 高校総体 インターハイ (zen-koutairen.com) <https://zen-koutairen.com/> 2023  
公益財団法人日本高等学校野球連盟 (jhbfor.jp) <https://www.jhbfor.jp/> 2023  
表5は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注12 文部科学省ホームページ 学校基本調査：文部科学省 (mext.go.jp) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm) 2023  
公益財団法人 全日本大学野球連盟 (jubf.net) <https://www.jubf.net/> 2023  
JBA 全日本大学準硬式野球連盟 (junkoh.jp) <https://junkoh.jp/> 2023  
表6は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注13 公益財団法人日本中学校体育連盟 (nippon-chutairen.or.jp) <https://nippon-chutairen.or.jp/2023>  
公益財団法人 全国高等学校体育連盟 | 高校総体 インターハイ (zen-koutairen.com) <https://zen-koutairen.com/> 2023  
公益財団法人 全日本大学野球連盟 (jubf.net) <https://www.jubf.net/> 2023  
JBA 全日本大学準硬式野球連盟 (junkoh.jp) <https://junkoh.jp/> 2023  
表7は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注14 田中亮太郎 軟式野球の将来的発展に関する課題についての検討 大阪芸術大学紀要<藝術>20号 1997
- 注15 NHK総合テレビ“新発見”と“新体験”テレビとスポーツの70年, 2023年2月23日放送
- 注16 スポーツ漫画がスポーツに与える影響とは | おすすめ作品を一挙紹介! | HALF TIMEマガジン (halftime-media.com) <https://halftime-media.com/sports-market/sports-comic-1/> 2023
- 注17 【図解】平成を振り返るスポーツ年表(1989～2019)：時事ドットコム (jiji.com) [https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve\\_spo\\_general-heiseisports-top](https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_spo_general-heiseisports-top)  
表8は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注18 【人気投票 1~95位】スポーツアニメランキング! みんながおすすめするスポ根アニメは? | みんなのランキング (ranking.net) <https://ranking.net/rankings/best-sports-animes> 2023 表9は上記ホームページを参考に筆者作成。
- 注19 表10は中体連、高体連、公益財団法人日本高等学校野球連盟、各大学野球連盟のデータから筆者作成。
- 注20 表11は中体連、高体連、公益財団法人日本高等学校野球連盟、各大学野球連盟のデータから筆者作成。
- 注21 表12は中体連、高体連、公益財団法人日本高等学校野球連盟、各大学野球連盟のデータから筆者作成。

## 参考文献

NHK総合テレビ“新発見”と“新体験”テレビとスポーツの70年, 2023年2月23日放送

小川洋 消えゆく「限界大学」白水社pp1-232,初版,東京, 2016

公益財団法人日本高等学校野球連盟 (jhbfor.jp) <https://www.jhbfor.jp/> 2023

公益財団法人日本中学校体育連盟 (nippon-chutairen.or.jp) <https://nippon-chutairen.or.jp/2023>

公益財団法人 全国高等学校体育連盟 | 高校総体 インターハイ (zen-koutairen.com) <https://zen-koutairen.com/> 2023

公益財団法人 全日本大学野球連盟 (jubf.net) <https://www.jubf.net/> 2023

公益財団法人 全日本軟式野球連盟 (jsbb.or.jp) <https://www.jsbb.or.jp/> 2023



- 佐々木肇 少年野球団体の設立経緯と制度化の検討 立  
教大学大学院コミュニティ福祉学研究科紀要 18 15-  
26, 2020
- sports-comic-1/ 2023
- スポーツ庁Web広報マガジンDEPORTARE, 「『30』 年後  
には運動部活動の生徒は半減する?!」 [https://  
sports.go.jp/](https://sports.go.jp/) 2023
- 広尾 晃 野球崩壊 深化する野球離れを食い止める  
イースト・プレス 初版、東京pp.1-234, 2016
- 総務省ホームページ 総務省統計局統計トピックス  
No.131 我が国のこどもの数 - 「こどもの日」にちな  
んで - (「人口推計」から)  
[https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi131.  
html](https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi131.html) 2023
- 広尾 晃 子供の競技人口減にダブルスポーツという  
秘策 スポーツの仲間であつたが未来はない  
東洋経済オンライン [https://toyokeizai.net/  
articles/-/330392](https://toyokeizai.net/articles/-/330392) 2020
- 総務省ホームページ 2040年を見据えた高等教育の 課  
題と方向性について [https://www.soumu.go.jp/  
main\\_content/000573858.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000573858.pdf) 2023
- 広尾 晃 深刻な「子どもの野球離れ」大人が引き起こ  
す事情 問題山積の少年野球界に対する有識者4人  
の視点 東洋経済オンライン [https://toyokeizai.  
net/articles/-/501142](https://toyokeizai.net/articles/-/501142) 2022
- JBA 全日本大学準硬式野球連盟 (junkoh.jp) [https://  
junkoh.jp/](https://junkoh.jp/) 2023
- 広尾 晃 とうとう野球部は卓球部よりも少なくなった  
…高校生の野球離れが年々加速している根本原因  
このままでは野球は「相撲化」する  
PRESIDENT Online  
<https://president.jp/list/category/money> 2023
- 時事ドットコム (jiji.com) 【図解】 平成を振り返るス  
ポーツ年表 (1989~2019)  
[https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve\\_spo\\_  
general-heiseisports-top](https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_spo_general-heiseisports-top)
- Full-Count 野球人口の減少に歯止めをかけるには?  
求められる野球界全体での取り組み [https://  
sportsbull.jp/p/690049/](https://sportsbull.jp/p/690049/) 2020
- 全日本学生軟式野球連盟 公式サイト - 全日本学生軟式  
野球連盟 公式サイト (jinbf.jp) [https://www.  
jinbf.jp/](https://www.jinbf.jp/) 2023
- Full-Count 野球人口減少に歯止めを NPBが10年以上  
活動…「ベースボール型」授業の存在と成果  
[https://full-count.jp/2022/09/09/post1278067/  
2022.](https://full-count.jp/2022/09/09/post1278067/)
- 全日本大学軟式野球連盟 公式サイト (junbf.jp)  
<https://junbf.jp/> 2023
- Full-Count 野球人口減少の打開策は? 学童日本一監督  
が提言…親子に支持されるチーム作り [https://full-  
count.jp/2023/03/03/post1344163/](https://full-count.jp/2023/03/03/post1344163/) 2023
- 田中亮太郎 軟式野球の将来的発展に関する課題につい  
ての検討 大阪芸術大学紀要<藝術>20号 1997
- ベースボール・ジャパン 野球人口の減少を食い止める  
ための活動の実態とは? [https://baseball-japan.jp/  
2022](https://baseball-japan.jp/2022)
- 脱炭素経営ドットコム「深刻な子供の野球離れ」～少子  
化だけではなく、野球人口減少の原因とは? ～  
[https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/wp-content/  
uploads/2023/09/2309\\_DEreportNo21.pdf](https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/wp-content/uploads/2023/09/2309_DEreportNo21.pdf) 2023
- ベースボール・ジャパン 小学生・少年硬式野球の競技  
人口の変化を調べてみました  
<https://baseball-japan.jp/?p=5696> 2023
- でかむ スポスルマガジン 野球競技人口は3500万人!  
人口減少など今後の課題も調査![https://  
sposuru.com/contents/sports-quest/baceball-  
competitiv-population/2023](https://sposuru.com/contents/sports-quest/baceball-competitiv-population/2023)
- みんなのランキング (ranking.net) 【人気投票 1~95位】  
スポーツアニメランキング! みんながおすすめる  
スポ根アニメは? [https://ranking.net/rankings/  
best-sports-animes](https://ranking.net/rankings/best-sports-animes) 2023
- 日本野球協議会 普及・振興委員会 野球普及振興活動  
状況調査2022 - NPB.jp 日本野球機構 [https://npb.  
jp/kyogikai/report\\_promotion\\_2022.pdf](https://npb.jp/kyogikai/report_promotion_2022.pdf) 2023
- 文部科学省ホームページ 学校基本調査: 文部科学省  
(mext.go.jp) 2023
- HALF TIMマガジン (halftime-media.com) スポーツ  
漫画がスポーツに与える影響とはおすすめ作品を一  
挙 介! [https://halftime-media.com/sports-market/  
2023](https://halftime-media.com/sports-market/)